様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　22 年　5 月　17 日現在

研究種目：若手研究 B
研究期間：2007～2010
課題番号：19730417
研究課題名（和文）　青年及び成人の親準備性と世代間関係
研究課題名（英文）　Readiness for parenthood and intergenerational relationships in adolescence and young adulthood

研究代表者
北村　琴美（KITAMURA KOTOMI）
大阪人間科学大学・人間科学部　健康心理学科・准教授
研究者番号：80411718

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・教育心理学
キーワード：母子関係，子育て，親準備性

１．研究計画の概要

(1)青年および初期成人において，世代間関係が親準備性を規定するプロセスモデルを作成し，実証的に検討する。具体的には，愛着理論の観点から，個人の感情の経験やそれらの調節の仕方を媒介として，世代間関係が親準備性に影響することを仮定したモデルに，子育てについての知識や理解度，子どもとの接触経験などを親準備性の規定要因としてモデルに加え，精緻かつ教育的介入可能性を考慮したモデルを検証する。
(2)モデルの検証に続き，青年および初期成人の親準備性を促進する教育援助法を検討する。モデルで見いだされた実証的知見を基礎として導入可能な教育プログラムを提案するための基礎的な研究を行う。すなわち，親準備性を規定する要因のプロセスモデルに基づき，変容可能性が高い具体的なスキルトレーニングを実施し，その効果を測定する。

２．研究の進捗状況

（1）を目的とした質問紙調査を，大学生を対象として複数回行い，そのデータを基に分析を行い，上記に記したプロセスモデルの検討を試みている。また，高校生を対象とした同様の調査を計画・準備中であり，調査実施後，プロセスモデルの精緻化を図る予定である。
（2）の結果に基づき，親準備性の教育のためのプログラムを検討中である。プログラム作成に向けた予備的取り組みとして，大学生を対象として，子どもの発達や子育て等の知識や理解を高める講義を行い，その前後における親準備性の状態の変化についての測定を行っている経過段階である。また，高校生を対象に同様の取り組みを計画・準備中である。

３．現在までの達成度

（1）を目的とした調査実施についてはほぼ計画通りである。ただし，その成果の発表について進展が遅れているので，早急にまとめ成果の発表を行う予定である。
（2）の目的のための教育プログラムの提案のための基礎的研究については，計画より進展が遅れている。
（理由）
（1）を目的とした調査結果により，先行研究から予想された研究とは異なる結果が得られ，プロセスモデルの再検討が必要とされた。そのため，（1）の成果発表，および（1）の結果に基づいた（2）に関する研究が計画より進展が遅れることとなった。

４．今後の研究の推進方策

今年度は，(2) の目的の検討を目指した研究を進展させる予定である。具体的には，数回の親準備性を促進するための教育プログラムを作成，実施を行い，その効果を測定する。

また，(1) を目的とした調査結果の成果発表に向けて，学会発表，論文投稿を行う予定である。

長期的には，妊婦や新婚期のカップルなど，より近い将来に親になる可能性が高い人々を対象として調査を行い，親準備性のための教育プログラム作成に取り組んでいきたいと考えている。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 1 件）

<u>北村琴美</u>　親になるための準備状態の構造－大学生における男女比較－，日本発達心理学会第 21 回大会発表論文集，624，2010

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕